

令和7年度 3学期始業式 講話

■令和8年 1月9日 No.23 「けじめ」

新年あけましておめでとうございます。

冬休みはいかがでしたか。皆さんの元気な顔と再会でき、校長先生はとてもうれしく思っています。

今年の干支は？そう午年ですね。スピードがあって、前に進みやすい年と言われています。何もしないで動かないのではなく、完璧にできなくても、とにかく一歩踏み出すのがいいそうです。

今朝、いつものように、校門で挨拶をしていますと、何名かの児童が、丁寧に立ち止まり「校長先生あけましておめでとうございます」とご挨拶をしてくれました。すばらしいですね。校長先生をしていて、こんな丁寧な年明けの挨拶をしてくれた児童は初めてです。良い年の始まりを迎えることができたなあと思いました。

今回の冬休みのお題は「俳句作り」です。みなさん、冬休みの間に考えてきましたか？もちろんこの宿題は強制ではありませんが、校長先生も考えてきましたよ。

前と後 指で数える 冬休み

始まる前もあと何日で冬休みかを数えますが、始まったら、冬休みの終わりまであと何日だなあと数えてしまうことを、詠んだ句です。みなさんも、1月30日までに考えた俳句を担当の先生に出してくださいね。

さて「一年の計は（ ）にあり」と言います。（ ）には元旦という言葉が入る慣用句です。今年一年の目標を決めるのは、元旦が良いですよという意味ですが、皆さんはどんな目標を立てましたか？まだの人は、今からでも立ててみてください。

実は、目標を決めるときには、去年のことを振り返ってから決めることが重要です。例えば、昨年

は朝寝坊が多かったなあという反省があって、だから今年は早く寝て早く起きるようにしようという目標が立てられるのです。

ではいつ振り返るのが、いいのでしょうか？

目標を立てるのは1月1日元旦がいいのですが、振り返るのはその反対の12月31日の大晦日がいいでしょう。そこで、こんな慣用句もあります。

「一年の数のおおみそかにあり」

数はふつうは「かず」あるいは「すう」と読むのですが、それでは意味が通りにくいです。いったい何とよむのでしょうか？ヒントは「〇〇〇」ひらがな3文字です。

正解は「けじめ」です。一ねんの数（けじめ）は大みそかにありと読むのです。けじめってどんな意味ですか？みなさんも、家でガラガラとゲームをしているときに「けじめをつけなさい！」と言われてたりしませんか？

けじめとは気持ちを切り替えて次に進むことです。人間ずっと緊張することはできません。ときにはゆっくりすることも大切です。授業中は集中。でも休み時間はリラックス。学校では緊張。でも家ではリラックス。このようにけじめをつけて気持ちを切り替えることはとても大切です。もう冬休みでも、お正月でもありません。気持ちを切り替えて数（けじめ）をつけて3学期のスタートをしていきましょう。

けじめは、難しいことをすることではありません。例えば、朝いつもより5分早く起きてみる。おはようございますとしっかり挨拶する。わからないときは「わからへん、教えて」という。こんな小さなことも立派な「けじめ」です。

3学期が一番短い学期ですが、一番大切な学期でもあります。なぜなら、今の学年のまとめをする。次の学年の準備の学期だからです。特に6年生は中学1年の「0学期」です。しっかり準備をしたいものです。

でも校長先生は、こんなふうにも思っています。けじめは完璧でなくてもいい。今日はいまでき

なかった。気持ちの切り替えが遅れた。そんな日があってもOKです。「よし、じゃあ明日は切り換えよう」そう思えたら、それも立派なはじめです。

3学期、学校は頑張る場所でもあります、失敗してもやり直せる場所でもありたいと思っています。先生たちは、みなさんがはじめをつけて、前に進もうとする姿を全力で応援します。

それでは、今週のお題は「1年の目標」です。よかったら、校長室前のボードに書きにきてください。今日も最後まで静かに話をきいていただき、ありがとうございました。

おはようございます。今日は少しいですか？というお題で書いてもらおうと思います。よかったら、校長室前のボードに書いてくださいね。

今日も最後まで静かに聞いていただき、ありがとうございました。